

2011年4月21日

## 世界最薄0.28ミリのタッチパネル用ガラス基板の販売を開始 スマートフォンやタブレットPCの軽量化に貢献

**AGC** 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、タッチパネル用ガラス基板としては世界で最も薄い、厚さ0.28ミリのソーダライムガラス\*1の開発に成功しました。今月下旬よりフロート法\*2で量産を開始し、スマートフォンやタブレットPCの軽量化に貢献します。AGCは今月下旬より電子機器向けタッチパネル用ガラス基板市場に向けて販売を開始し、2013年に売上高100億円以上を目指すとともに、本製品を含めたディスプレイ用特殊ガラス等新商品を2013年に売上高1,000億円以上に拡大することを目指します。

昨今、世界で急速に普及が進んでいるスマートフォンやタブレットPCでは、タッチパネルを通じて入力操作を行う方法が主流となっています。タッチパネルは表面を保護するカバー材と電極層を配置する基板材で構成されており、基板材には熱による変形がほとんどない、紫外線などによる変色が少なく耐候性が極めて高い、加工性に優れ化学強化処理\*3ができる、などの特徴から、AGC製品をはじめとするソーダライムガラスが広く使われています。

スマートフォンやタブレットPCなどのモバイル端末は、持ち運びやすさが消費者の購買判断の重要な要素となっており、主要構成部材のひとつであるタッチパネル用ガラス基板にも薄さと軽量化が求められています。現在、世界で最も薄いタッチパネル用ガラス基板は当社品を含め0.33ミリでしたが、約15%の薄さ向上に成功した今回の製品は、同様に15%の軽量化も実現しています。

AGCは経営方針 *Grow Beyond* で掲げた「新たな成長基盤の構築」の実現に向け、タッチパネル用ガラス基板や本年1月に発売を開始した化学強化用特殊ガラス「Dragontrail™」など様々なディスプレイ用特殊ガラスを通じて、ソリューション提供に注力します。

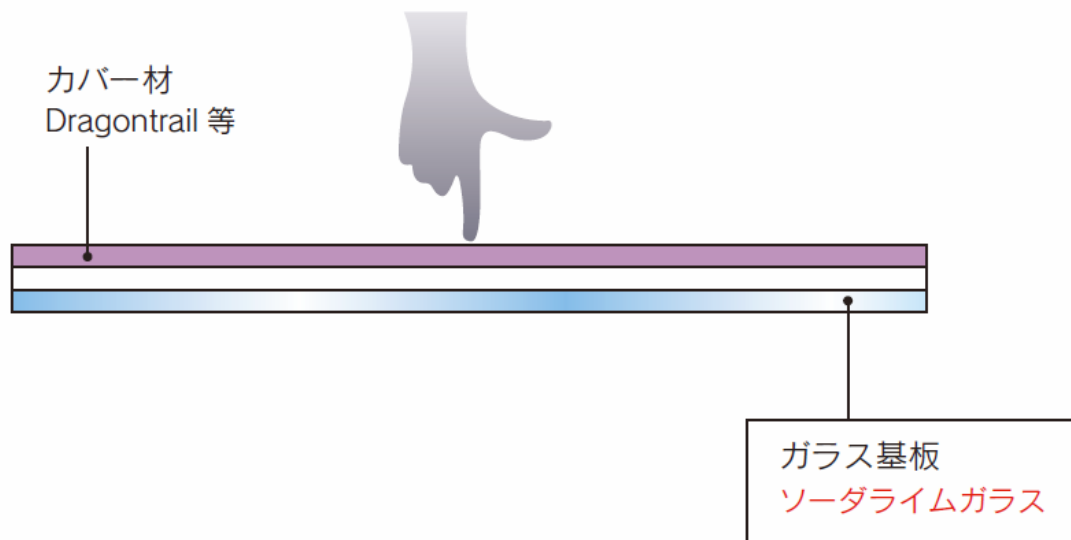
なお、このタッチパネル用ガラス基板は5月15日よりロスアンゼルスで開催される展示会“Society for Information Display(SID)”の当社ブースで展示します。

- \*1 ソーダライムガラス：  
酸化ナトリウム・二酸化ケイ素などを主成分とし、建築用・自動車用のほか、各種電子機器にも使われている、最も一般的なガラス。
- \*2 フロート法：  
ガラス素地を熔融金属の上に浮かべてガラスを成型する製造法。  
高い平坦度のガラスを効率的に製造できるという特徴を持つ。
- \*3 化学強化処理：  
ガラス素板を薬品に浸すことで表層を化学的に強化する技術

◎本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR 室長 上田 敏裕  
(担当：小田 TEL：03-3218-5260、E-mail：info-pr@agc.com)

## タッチパネルの構造

(投影型静電容量方式)



### 0. 28ミリのタッチパネル用ガラス基板

